

- 3 次代を担う人材の裾野の拡大

初等中等教育段階からの科学技術を支える人材養成

- ・科学技術分野における卓越した人材の養成のため、スーパーサイエンスハイスクール、目指せスペシャリスト事業を実施。
- ・科学技術と社会に関する世論調査では、「科学技術に関する知識はわかりやすく説明されれば、大抵の人は理解できる」という質問に対して肯定的な回答が多いが、「科学技術について知りたいことを知る機会や情報を提供してくれるところは十分にある」という質問に対しては、否定的な回答が多い。

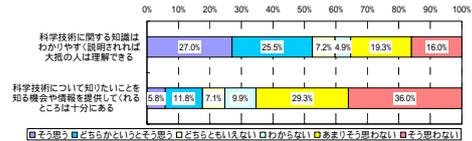
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)等について

- ・スーパーサイエンスハイスクール
- ・理科・数学に重点を置いたカリキュラムの研究開発や大学・研究機関との連携方策の研究等を実施。
- ・現在、全国の72校の高等学校がSSHに指定され、研究開発を実施。
- ・平成17年度から事業の在り方の見直しを図り、3年間の指定期間を長期化(5年間)し、将来の国際的な科学技術系人材の育成施策としての位置づけをより明確にする。

総合科学技術会議「平成17年度科学技術予算改革の進捗状況について
スーパーサイエンスハイスクール支援事業 理科教育等推進のためのモデル事業としての意義があり、指定期間を3年から5年に延長することは継続性の観点から評価できる。本施策実施後初の卒業生が本年度末に出るから、進路の状況を踏まえ、入念なプログラムを構築し、着実に推進すべきである。また、本事業の支援終了後の定着の仕組みについて、教育委員会及び地方公共団体の協力も念頭におきつつ、早期に検討しておく必要がある。

- ・目指せスペシャリスト
- ・先進的な技術・技能等を取り入れた教育等を重点的に行っている専門高校において、技能の修得法や技術の開発法、大学や研究機関等との効果的な連携方策の研究等を実施。
- ・現在、全国の19校の高等学校が指定されている。

科学技術と社会に関する世論調査



調査対象：全国18歳以上の者 3000人 有効回答数2084人

出典：内閣府 科学技術と社会に関する世論調査(平成16年2月調査)

11.7

科学技術・学術審議会 基本計画特別委員会第3回資料

理科教育を巡る環境

- ・理科教育設備品は小学校・中学校ともに基準数量を大きく下回っている。

理科教育設備品の充足率(小・中学校)

	小学校			中学校		
	基準数量	充足数量	充足率	基準数量	充足数量	充足率
計量器	5.2	31.1	59.8	1.4	8.2	58.6
実験機械器具	27.2	51.3	18.9	32.8	80.4	24.5
野外観察調査用具	1.7	0.8	4.7	3	0.5	16.7
標本	2.9	4.0	13.8	4.6	10.6	23.0
模 型	1.2	1.9	15.8	2.3	3.4	14.8
合 計	38.2	89.1	23.3	41.4	103.2	24.9

公立小学校2000校 公立中学校1000校を対象に調査

出典：平成16年理科教育設備の整備及び活用等に関する実態調査報告書

児童生徒の学習に関する意識

数学・理科については、国際的に比較して成績は悪くないが、興味が低い。

数学・理科に対する意識の国際比較

(1) 我が国の成績

算数・数学の成績

	小学校	中学校
昭和39年(第1回)	実施していない	2位 / 12国
昭和56年(第2回)	実施していない	1位 / 20国
平成7年(第3回)	3位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	5位 / 38国
平成15年(第4回)	3位 / 25国	5位 / 46国

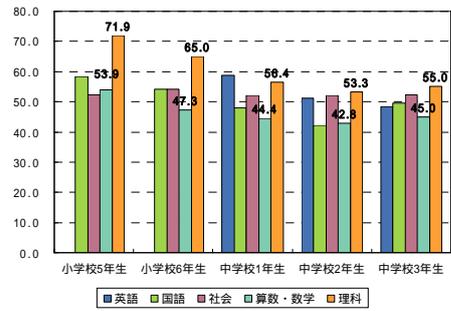
理科の成績

	小学校	中学校
昭和45年(第1回)	1位 / 16国	1位 / 18国
昭和58年(第2回)	1位 / 19国	2位 / 26国
平成7年(第3回)	2位 / 26国	3位 / 41国
平成11年(第3回追調査)	実施していない	4位 / 38国
平成15年(第4回)	3位 / 25国	6位 / 46国

(2) 数学・理科に対する意識

	勉強は楽しいと思う		得意な教科である	
	数学	理科	数学	理科
中学校	39%	59%	39%	49%
国際平均	65%	77%	54%	54%

当該科目を好きだとする児童生徒の割合



資料: 国立教育政策研究所
「小中学校教育課程実施状況調査(平成13年度)」